



今回のおすすめメニュー

NO

IMAGE

『さよなら、田中さん』

鈴木 るりか 著 /小学館

分類：913.6ス 所蔵館：中央館



ちょっとあ・じ・み

田中花実は小学6年生。超ビンボーだけど、よく働き、よく食べる明るいお母さんと仲良く暮らしている。生まれたときから父親はいないので、淋しくはないが、ときどき想像してみたりする。お母さんにお父さんのことを聞いてみるのだが、いつもスルッとはぐらかされてしまうのでした。

著者の鈴木るりかさんは、何と中学生の作家さんです。この『さよなら、田中さん』で作家デビューしました。

「田中さん」家は、明るい母子家庭。お父さんのことだけは本気で話したがらない母に、もしかして犯罪者？などと想像したりしますが、貧乏エピソードでさえも親子のやりとりでなぜか面白いです。田中さんの周りの人の、親子関係だったり、悩みや挫折に苦しくなったりしますが、希望もちりばめられています。そして、おかあさんや先生等の言葉になって、中学生が書いたとは思えない名言がいっぱい。どの言葉が印象にのこるでしょう？

NO

IMAGE



『14歳、明日の時間割』

鈴木 るりか 著 /小学館

分類：913.6ス 所蔵館：中央館・石川館



ちょっとあ・じ・み

中学校が舞台のお話で、1時間目から放課後までにみたてた、7つのものがたり。一編ごとに主人公が違います。

●2時間目の家庭科は、料理も裁縫も「壊滅的にできない」母から生まれた「家庭科の得意な」女の子と、卓球部の有望な選手だったのに、家庭科クラブに突然入部してきた少年のおはなしです。

●5.6時間目の体育は、体育が苦手な少女のおはなし。去年のマラソン大会はぶっちぎりの最下位。しかし、今年はグラスごとに平均タイムを出し、競うらしい。「どうしよう、やすんじゃおうかな。」

こんなこと、考えたことあるなーと共感できるポイントがでてくると思います。

唯一、全編に登場する「中原君」がかっこよすぎるので、注目です。

…思春期の悩み。昔、中学生だった大人のみなさんも、楽しめると思います。ぜひ。